

令和6年度 大館市立田代中学校 学校評価書(前期)・年度)

A 学校教育目標

ふるさとに誇りをもち、今と未来の幸せをつくる学校 ～共生 凡事徹底 挑戦～

B 生徒会テーマ

「最幸」～この素晴らしい田つ中に幸せを！～

C 本年度の重点目標

- 1 未来大館市民の育成のために全教育活動を通して人間的基礎力、主体的実践力、共感的協働力及び自己有用感・自尊感情を育てる。
- 2 地域社会と関わる学習を通して、ふるさとへの誇りや志をもって自らの生き方について考えることができる生徒を育む。
- 3 地域貢献活動や地域との協働活動等を通して学校と地域の協働体制を構築し、地域とともに歩む学校づくりを推進する。

D 本年度の経営方針

基本姿勢 「目的」と「手段」を明確にした教育活動の展開

全教育活動を通して育成を目指す資質・能力

- 1 JAKSを基盤とした人間的基礎力 よりよく生きるために基本的な生活習慣、人間性や社会性を身に付ける
- 2 主体的実践力 自ら課題を見つけ、考え、判断し、よりよく行動する
- 3 共感的協働力 相手を尊重する 仲間と力を合わせて考え、創造する
- 4 自己有用感・自尊感情 互いに認め合う、自分のよさや可能性を知る、周りに貢献する

未来につながる確かな学力の育成

資質・能力を身に付けるために「見方・考え方」を働かせて学びを深める授業
～教科等の本質を外さない、共感的・協働的な学び合いの充実～

- I 見方・考え方を明確にした授業構想
- II 共感的・協働的に学び合う授業の充実 樹林タイムD(考えを出し合う)樹林タイムF(考えを深める、広げる)
- III 学びの質を高めるためのICT活用の推進と個に応じた指導の充実 (TT・少人数指導)
- IV OODATEループとPDCAサイクルを生かした校内研究の充実

未来につながる豊かな人間性と社会性の育成

- I JAKSを基盤とした人間的基礎力の育成
- II 主体的実践力、共感的協働力、自己有用感・自尊感情の育成
- III 全ての教育活動を通して行う道徳教育の充実
- IV いじめ・不登校の未然防止と自立支援のための組織的対応

ふるさとへの誇りや自立の気概を育み、未来につながる「ふるさとキャリア教育」の充実

- I 郷土愛の醸成と地域貢献力を育む体験活動
- II 地域のひと、もの、ことと関わる体験・交流活動
- III 望ましい職業観や勤労観を育む体験活動
- IV 社会における役割や将来の生き方を学ぶ活動
- V 田代地域学校協働支援チームでの連携・協働

【体育祭 田つ中ソーラン】



【大北総体で優勝したバレーボール部と男子卓球部】



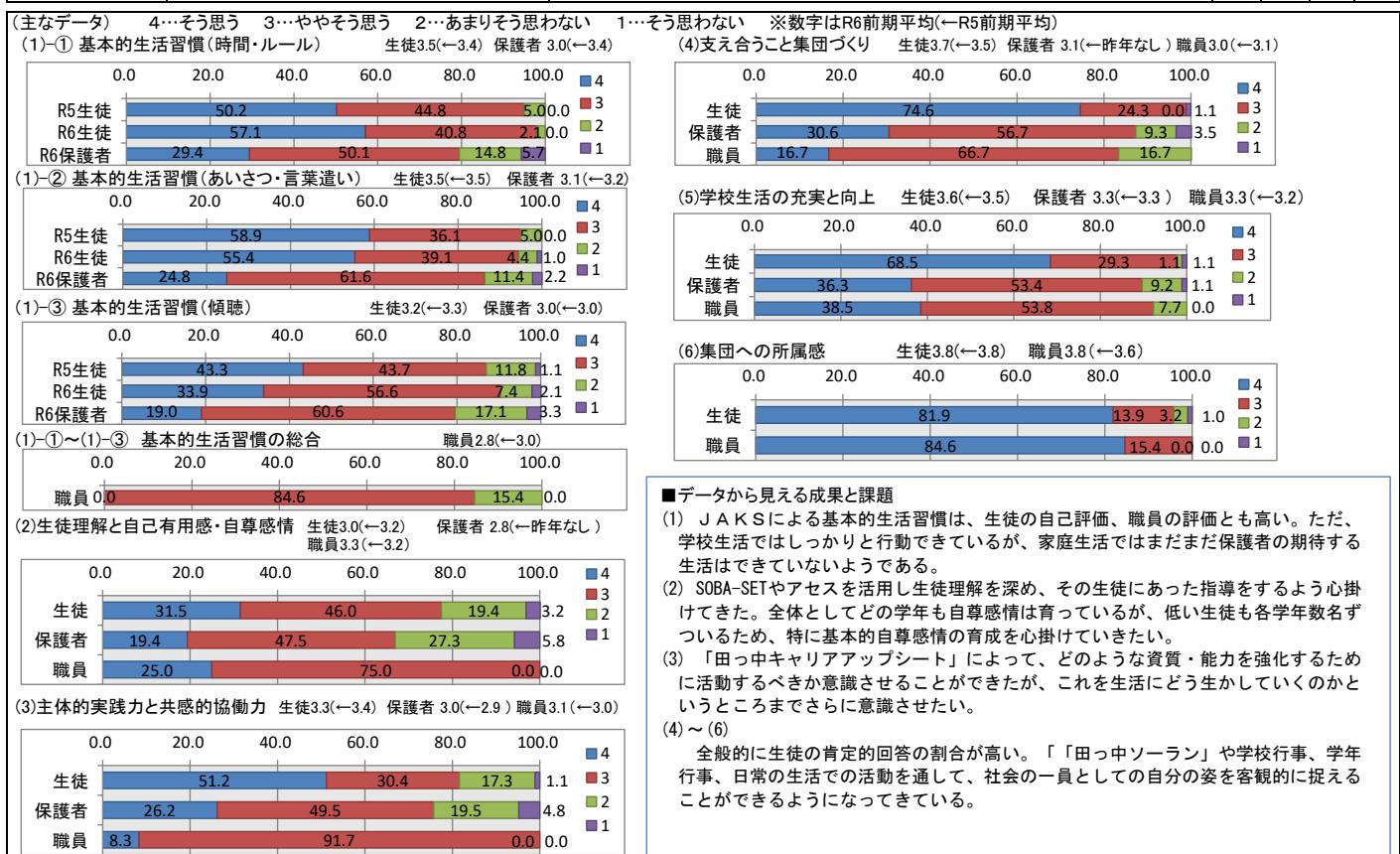
ア 生徒の状況

自己評価Aと外 部評価の評価区分	きわめて良好 良好 おおむね良好 やや不十分 努力を要する	自己評価Bの評 価基準	5 4 3 2 1	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成 実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成 実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成 実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成 実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成
---------------------	---	----------------	-----------------------	---

I 自主的・自律的な生活

生徒の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
明るく心のこもった挨拶をし規律ある落ち着いた生活を送りながら主体的実践力を育もうとしている。	前期 おおむね良好	おおむね良好	素直で優しいところが田代中生のよさだが、授業等においては、もっと張りのある声を出してもらいたい。学年が上がるごとに大きな声がでているので、1・2年生も3年生を見習って頑張ってほしい。ただ、校外でのあいさつはよくなってきており、以前に比べると声も大きくなっているので、今後の学校生活にも生かしてほしい。
互いに認め合い、協力し合いながら安心した学校生活を送り、豊かな人間性を育もうとしている。	年度		
【前期(→年度)】			基本的な生活習慣に関するアンケート結果の中で、生徒と保護者の開きが最も大きい項目は「時間・ルール」についてである。夏休み中の保護者面談では、家庭でのスマート・ゲームに関する時間・ルールが守られていないという声が多くた。「スマホ・ゲームの所有者は保護者である。」という前提で、各家庭でルールづくりをするとともに、そのルールが守られるように学校が助言していく必要性を感じる。
学校行事等に、目標をもって取り組めていない、自信をもって取り組めていないという生徒が2割いる。そのような生徒には、キャリアアップシートで目標設定する際に、個別な支援が必要だと考えられる。また、行事後の振り返りの際に価値付けることによって、自信をもたせることが大切である。			
(4)～(6)の項目は肯定的な回答が多いことから、集団としての共感的な風土が養われていることが分かる。この強みを生かして、(2)自己有用感・自尊感情、(3)主体的実践力と共感的協働力の向上につなげていきたい。			
【年度(→次年度)】【成果】			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
1 JAKS: 基本的な生活習慣の確立 TPO: 人間的基礎力・共感的協働力の育成	(1)基本的な生活習慣の確立(時間管理、挨拶・言葉遣い、聴く・姿勢、整理整頓)	・樹林ノートを活用した見通しのある生活、風紀委員会による推進活動 ・時と場に応じた挨拶、人の話に傾聴する姿勢や態度の向上→(凡事徹底)	3	
	(2)生徒理解とよさを伸ばす関わりによる自己有用感・自尊感情の醸成	・学級、生徒会活動の見届け、称揚と生徒同士が認め合う場の設定→(共生) ・アセス、いじめ調査等のデータを活用・共有した生徒支援	4	3
	(3)目標の設定と振り返りによる主体的実践力、共感的協働力の育成	・樹林ノート等を活用した、学期や長期休業の目標設定と振り返り→(挑戦) ・目標の実現に向けた、共感的・協働的・高め合う場の設定	3	
2 共感的風土の中での活気ある個と一体感のある集団づくり	(4)互いに支え合う個・集団づくり ・学年、学級経営、学級活動	・学年委員会の機能を生かした学年集会の計画と実施 ・学校行事に向けた目標設定及び事後の活動の振り返りの場の保障と価値付け(田中キャリアアップシート)	3	
	(5)主体的実践力・共感的協働力の育成と学校生活の向上 ・生徒会活動(執行部、専門委員会)	・生徒会テーマに基づいた日常活動の工夫 ・学校生活の向上を目指すための生徒会活動の充実 ・地域と積極的に関わる活動の充実	3	3
	(6)共感的・協働的活動による所属感、連帯感、自己有用感の醸成 ・体育祭(田中ソーラン、応援合戦)、学校祭(合唱コンクール、学年発表)、地区ボランティア(夏・冬)	・全校が一丸となって、活気をもって取り組めるような行事の計画、実践 ・縦割りの機能を生かした一体感のある活動(体育祭、地区ボランティア等)	4	



ア 生徒の状況

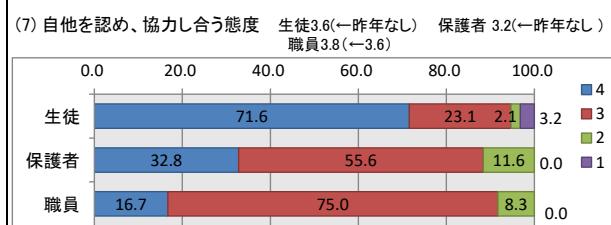
自己評価Aと外 部評価の評価区分	きわめて良好 良好 おおむね良好 やや不十分 努力を要する	自己評価Bの評 価基準	5 実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成 4 実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成 3 実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成 2 実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成 1 実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成
---------------------	---	----------------	---

II 思いやりの心・たくましい心

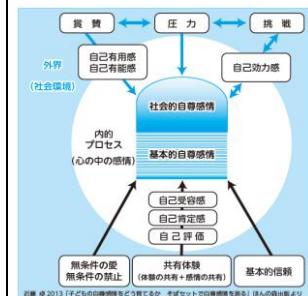
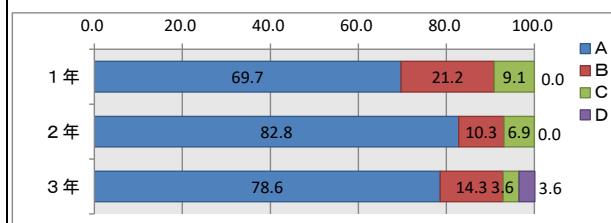
生徒の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
集団や社会における人間関係の形成と、よりよく生きるためにの考え方を深め、自己実現を図ろうとしている。	前期 良好	良好	「郷土愛」については、職員の肯定的な自己評価が100%であったことがとても素晴らしい。それだけ、生徒たちが地域のために一生懸命頑張ってくれているのだと思う。また、今年から始めたSOBA-SETが生徒を育てる指標になっており、どの学年も7割から8割程度の生徒がA段階(基本的自尊感情・社会的自尊感情が高い)に該当している点は評価できる。
自己評価の概要 学校との改善策	年度		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
3 よさの伸長と豊かな心と自立心	(7)自他を認め、互いに協力し合う生徒の育成 ・教育活動全体を通じた道徳教育と「考え、議論する道徳」の充実	・学校と学年の重点目標を位置付けた計画と実践(道徳教育全体計画別葉の活用) ・創意工夫を生かした教育活動と関連付けた道徳の実践 ・道徳集会(全校生徒で「考え、議論する」場)の設定	4	
	(8)ふるさとを愛し、積極的に交流・貢献する生徒の育成 ・職場見学、地域訪問、職場体験、キャリア講話、田代と自分の未来を語る会、地区ボランティア活動等	・職場見学、地域訪問、職場体験の充実 ・キャリア講話、田代と自分の未来を語る会、地区ボランティア活動などを通じた郷土愛の醸成 ・ボランティア活動、地域行事、子どもハローワークへの参加の推進 ・活動の振り返りの設定と価値付け(ポートフォリオ、樹林N、特活F、キャリアパスポート、キャリアノート)	4	

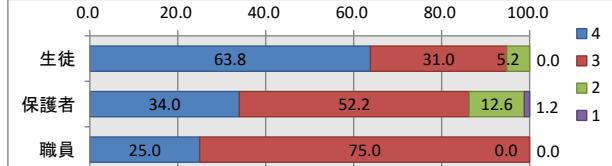
(主なデータ)



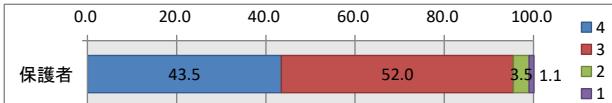
(8) SOBA-SETによる、学年ごとの4類型の割合



(8) 郡土愛 生徒3.6(←3.4) 保護者 3.2(←3.2) 職員3.4(←3.3)



(7)(8) 活躍の場 保護者3.4(←3.3)



【十ノ瀬藤の郷】 いしころ合同会社



【ロケット試験場
(三菱重工)見学】

【職場体験】



【地区ボランティア】



年	基本的自尊感情の平均		社会的自尊感情の平均		
	1年	2年	3年	1年	2年
1年	16.5	15.3	16.2	14.6	15.2
2年					
3年					

※どちらも満点は24点

(人)

年	基本的自尊感情						
	6-7	8-10	11-12	13-15	16-17	18-21	22-24
1年	基本的自尊感情						
	3	7	8	10	5	14	1
2年	社会的自尊感情						
	1	1	16	5	6		
3年	基本的自尊感情						
	5	1	6	11	5	1	
	社会的自尊感情						
	2	3	12	4	5	2	

■データから見える成果と課題

- (7) 思いやりの心をもって、自他を認め合うことができると回答した生徒が90%以上いる。基本的自尊感情、社会的自尊感情も定着しており、自己肯定感が高いA群に分類される生徒が70～80%いる。ただし、基本的自尊感情はある程度定着しているが、社会的自尊感情が低いB群や、基本的自尊感情は低いが、社会的自尊感情が高いD群、どちらも低いC群も若干名いるため、個々に合わせた指導をしていきたい。
- (8) 「田つ中キャリアアップシート」により、地域のよさや地域に貢献しようとする意識をもつことができている。およそ95%の生徒が肯定的回答をしており、平均値も高くなっている。

ア 生徒の状況

自己評価Aと外 部評価の評価区分	きわめて良好 良好 おおむね良好 やや不十分 努力を要する	自己評価Bの評 価基準	5 4 3 2 1	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成 実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成 実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成 実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成 実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成
---------------------	---	----------------	-----------------------	---

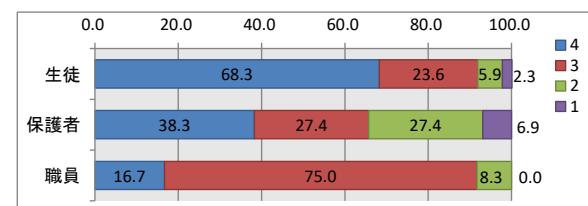
Ⅲ 基礎学力

自己評価 学校概要 の要 改と 改善策	生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
	前 期	おおむね良好	おおむね良好	おおむね良好	家庭学習については、生徒も職員も90%以上が肯定的意見であり、よく取り組まれている。生徒ヒアリングでは、「授業がとても分かりやすく楽しい」という声があった。他にも学び合いの時間「樹林タイム」が生徒の中に浸透しているとの声も聞かれた。教師がめざす授業の形が「授業スケール」で示されているので、これからの授業改善に期待したい。
	年 度				
【前期(→年度)】					(9)に関して、年度初めのオリエンテーションや、日々の学習委員の活動により、生徒一人一人が基本的な学習習慣を意識しながら授業に臨むことができているととらえている。家庭学習に関しては、生徒と、保護者、教師との間の感覚に乏しがある。教師が求めるレベルに、生徒のやる気や内容を引き上げていきたい。
(10) 主体的・協働的授業について、肯定的な回答が低い。生徒の主体性を引き出し、協働的学習を促す授業実践ができるないと感じている先生が一定数いるという点や、自分の意見、疑問を表現できていると感じている生徒が6割にとどまっている点が課題である。2学期は、本校の研究の重点実践項目である、生徒が主体的に自力解決へと向かう導入の工夫や、学び合いの時間「樹林タイムD・F」の一層の充実をはかっていく。その際、校長だより7号で示された、授業改善のためのスケール型チェック表を使い、自分の授業が現在どのレベルにあるのかを自覚し、改善を目指す。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実がなされるよう、ICTを積極的に活用しながら新しい授業の形を探っていきたい。					
【年度(→次年度)】					

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
4 一体感と活気のある学習活動	(9)基本的な学習習慣の確立と主体的な学習の充実	・「田代中學習の約束」を基盤とした基礎・基本の定着 ・学習、ICTオリエンテーションによる生徒の學習意欲の向上と授業を見合う会(樹林ツアーアー)、研究授業等による授業改善 ・學習委員会による學習状況の評価と課題改善に向けた活動の充実	3	
5 授業改善への取組	(10)生徒一人一人が自分の考えをもち、共感的・協働的に課題を追究する授業実践	・各教科で働く「見方・考え方」や育む資質・能力を明確にした単元(題材)構想と授業デザインの工夫 ・学び合いの時間「樹林タイムD・F」の実施と教師のコーディネート ・自己の変容や学びを自覚させるためのつながりを意識した振り返り	3	3
6 諸検査の分析と活用	(11)學習状況調査等の分析と指導方法の改善	・各種テストの分析と適切な回復指導 ・形成的評価を生かした學習状況の把握と回復指導	3	

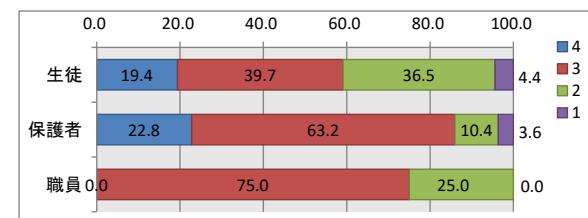
(主なデータ)

(9)家庭学習の継続 生徒3.6(←3.5) 保護者 3.0(←2.8) 職員3.1(←3.3)



(10)主体的・協働的授業 生徒2.7(←3.2) 保護者 3.1(←3.1) 職員2.8(←3.1)

生徒:授業では自分の意見や考え、疑問などを述べるようにしていますか。
保護者:学校は少人数学習やチームティーチング、個別学習など、学力を向上させせるための工夫をしていると思われますか。
職員:生徒が主体的に課題を追究する授業実践

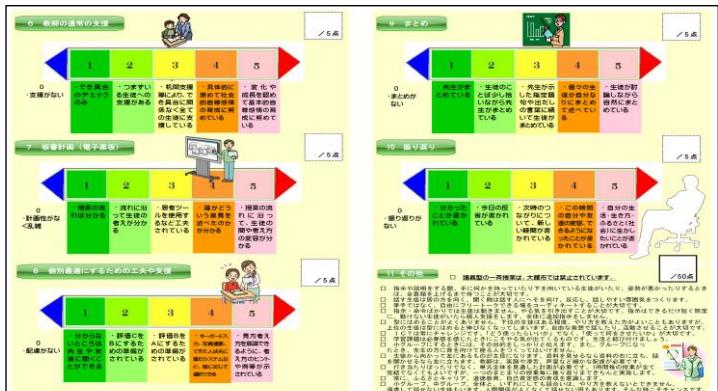
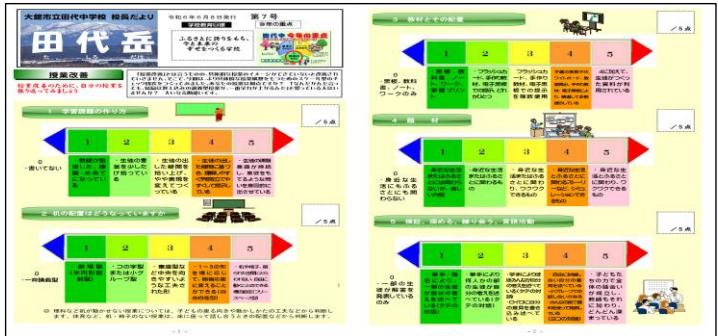


(11)諸検査の分析と活用・授業の理解 生徒3.3(←3.2) 職員 2.8(←2.9)

生徒:授業の内容をおよそ理解することができますか。 3.3(←3.2)
職員:各種テスト、評価、學習状況調査等の分析と回復指導 2.8(←2.9)



【田代中が共通して目指す具体的な授業の形のスケール】



■データから見える成果と課題

- (9) 家庭学習については、生徒と職員がほぼ同数であることから、提出されている割合はほぼ同じだと考えられる。ただし、「4」と「3」の割合が全く逆であることから、生徒からすると十分学習しているようだが、職員からするとやや内容が不十分だと判断しているようである。
- (10) 全般的に対話的学習が弱い。生徒の自己評価が昨年度よりも0.5ポイント下がった。教師による自己評価も0.3ポイント下がっている。上のスケールにあるように、拳手・発表という概念にとらわれない、新しい授業の形を作っていくたい。
- (11) 授業での評価やテスト、學習状況調査の全体的傾向と個別の分析により、苦手としているところを理解できるよう対策を講じたい。

ア 生徒の状況

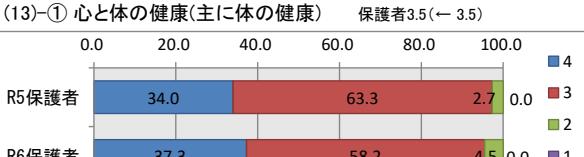
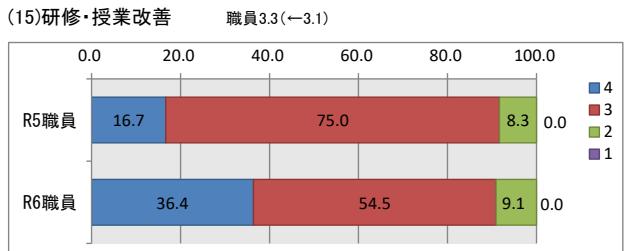
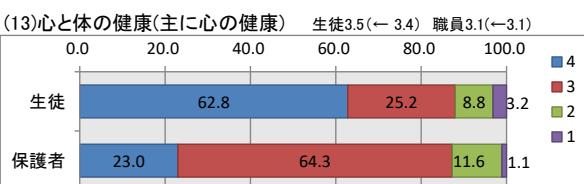
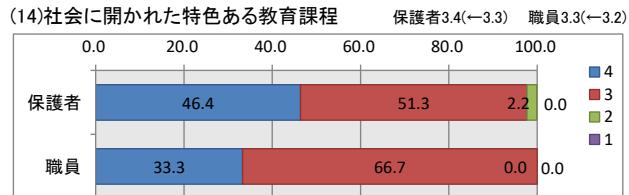
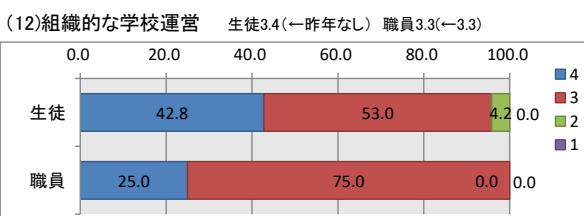
きわめて良好	5	実現状況は極めてよく意欲も高い／数値目標に対し100%以上達成
良好	4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
おおむね良好	3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
やや不十分	2	実現状況はやや不十分で意欲が不安定／数値目標に対し40～59%達成
努力を要する	1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

IV 組織運営

自己評価の概要と改善策	学校の状況 教職員が学校教育目標及び重点事項等を踏まえた主体的、組織的な取組を行っている。	自己評価A 前 期	学校関係者評価 良好	学校関係者評価委員のコメント	
				(12)組織的な学校運営、(13)②「心と体の健康(全般)」、(14)「社会に開かれた特色ある教育課程」の3項目における教師の評価を見ると、肯定的な意見が100%を占めており、昨年度よりも向上している。教師集団がお互いに高め合いながら一つの目標に向かっている。生徒ヒアリングでも「学校生活がとても楽しい」という声が上がっていることからも先生たちの頑張りが窺える。	
		年 度			
【前期(一年度)】 三つの柱に基づいた共通実践を支えるものとして、生徒の「自尊感情」や「自己有用感」を育成することを切り口に、新たに「SOBA-SET」を活用した生徒理解や教育相談、チーム対応の充実が図られた。職員のアンケートにおいても組織的な学校運営の項目(12)と(13)で高評価を得ている。生徒アンケートにおいても「誰に悩みを相談できるか」という項目で「4」と「3」とで8割を超える高評価である。だが一方で「1」と「2」と答えた生徒も1割強存在する。今後は、そのような生徒を置き去りにしないような教職員の受信力の向上とチーム対応が必要と考える。多様な生徒が増えた同時に家庭環境も多様化している。職員会議で、生徒理解に関する研修を校長を中心に行っているが、もう少し時間をかけてじっくり研修したい内容である。日課の調整を行うなどして、生徒理解に関する研修の場を設けていきたい。ふるさとキャリア教育については、活動を「総合」「特活」「行事」等、どれに分類されるのかを明らかにしたことで、目標設定からまとめまでを一貫して行うことができた。					

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
7 組織的な学校運営	(12)学校教育目標・目指す学校像・生徒像実現への取組 (共通理解・共通実践・凡事徹底・組織力を生かしたチーム対応)	・目標の実現のための三つの柱(確かな学力の育成、豊かな人間性と社会性の育成、「ふるさとキャリア教育」の充実)に基づく共通実践 ・目的と手段を明確にした教育活動の展開と全ての教育活動を通して一人一人が身に付ける資質・能力(JAKSを基盤とした人間的基礎力、主体的実践力、共感的協働力、自己有用感・自尊感情)の育成 ・目標の実現のための学校評価等の活用と改善	4	
	(13)生徒理解を深め、課題予防の生徒指導の実践	・教育相談・アセス・SOBA-SETの実施、教員間の共通理解とチーム対応 ・不登校、問題行動についての共通理解と支援体制の構築 ・生徒の健康に関する共通理解と健康意識の向上を期した掲示環境の整備 ・望ましい生活習慣の確立を目指した保健指導と食育	4	4
8 教育課程の編成と実施・改善	(14)社会に開かれた創意ある教育課程の編成	・ふるさとキャリア教育を充実させる総合・特活・各教科との関連を図った計画 ・見通しのもてる年間計画・月計画・週計画の作成と運用	4	
9 教職員の研修	(15)研修及び授業研究会を通した指導力の向上	・校内研修会(ICT、夏季、冬季)の充実 ・教科を越えて全員で研修する指導案検討会と授業研究会 ・毎月1回「授業を見合う時間」(樹林ツアーズ)の設定	3	

(主なデータ)



■データから見える成果と課題

(12) 校訓や重点、JAKSを意識した生活ができるようになり、どの教科でも同じペクトルで学習指導をするなど、学校教育目標の具現化のために組織的に取り組むことができた。

(13) SOBA-SETやアセスを参考しながら、生徒の様子、言動と対応について情報交換しながら、全職員で一人の生徒を育てるのを確認して心の健康の指導に当たっている。生徒が悩みを相談できるように意図的に場の設定をしている。また、生徒指導に関する研修を職員会議毎に行っている。

(14) 今年度から、各行事の指導計画のねらいに徳の内容項目を記入するようにした。これによって、活動のどの場面でどう指導するのかが明確になった。意図的に指導できるため、徳の授業だけでなく、あらゆる活動で徳教育ができるようになった。

(15) 「樹林ツアーズ」という授業を見合う会を毎月実施し、他教科の授業を参観することで、学んだことを自分の授業にも活かせるようにしている。全職員で、授業力を向上させられるように取り組んでいる。



1 学校運営の 状況		自己評価Aと外 部評価の評価区 分				
きわめて良好		自己評価Bの評 価基準				
良好		5 実現状況は極めてよく意欲も高い／数値目標に対し100%以上達成				
おおむね良好		4 実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成				
やや不十分		3 実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成				
努力を要する		2 実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成				
		1 実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成				

V 保護者・地域との連携

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の取組が分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が有効に活用されている。	前期 良好	良好	学校報、学年報やブログ、ホームページ、メール等を活用して、学校や生徒の活動の様子を丁寧に発信していることが高評価につながっている。校地整備等のPTA活動の際には、多くの保護者の皆さんに参加していただいていること、学校と保護者との連携・協働が進められている。
	年度		
【前期(→年度)】 今年度も引き続き、学校の教育方針や学校行事における生徒の活躍の様子について、学校報や学校HP、学校ブログ、連絡メール等で情報発信してきた。今年は「校長室より」と題して、校長自ら教育方針や今年の重点について紹介する機会をもつことができた。保護者の95%が肯定的な回答をしているが、昨年度より4の回答が増加しており、ここ3年間の内では最高の値となっている。今後は生徒や職員の声も紹介するなど、情報の質向上をめざしていきたい。 地域・保護者との連携についても保護者の94%が肯定的な回答をしており、4の回答も増加している。今年度は地域コーディネーターの紹介により、三菱重工業田代ロケット燃料燃焼試験場を見学することができた。通常は見学を受け入れていない施設であり、子どもたちにとって地元田代に先端技術であるロケット施設があることを知る貴重な機会となった。			
【年度(一次年度)】			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
10 情報の受発信 と学校開放	(16)広報活動の充実と学校開放	・学校報、メールでの保護者への情報発信 ・HPを利用した地域・社会への情報発信 ・学校開放の実践(保護者・地域)	4	4
11 地域の教育力 の活用	(17)地域・保護者等と連携・協働した教育活動	・PTA活動の充実や地域学校協働本部事業の活用 ・地域及び学校間の連携・協働のための連絡調整と活動の促進	4	

(主なデータ)

